



撮影場所／旧伊庭家住宅2階アトリエ(安土町小中)

聞き手／近江八幡市広報番組「テレはち」  
キャスター 片山むつみ

## 市長新春トーク

2022 New year talk

新年にあたり、小西理市長が昨年を振り返り、今年の展望を語ります。

—— 昨年は、コロナ禍でさまざまな活動が制限され、暗いニュースも多い中、うれしいニュースもありましたね。

市長 昨年は、コロナ禍で嬉しいニュースも少なかつたかもしれませんが、そのような中、本市出身の乾友紀子さんが、東京オリンピックのアーティスティックスイミング競技で4位に入賞され、日本チームのキャプテンとしてチームを引っ張る重責を担われました。本当に市民として誇りに思います。また、今年の4月には、竹町の健康ふれあい公園がグラウンドゴルフ場と児童遊技場を含めグラウンドオープンします。市民の健康づくりの場として、多くの人に使っていたただけるようになることは嬉しいニュースですね。

—— 市庁舎整備では、昨年7月に基本設計がまとまりました。

市長 市庁舎整備は、「小さな庁舎大きな福祉」をテーマに、庁舎の見直しをさせていただき、基本設計でその概要を皆さんにお示しすることができました。皆さんのすべてのご意見を取り入れられたわけではありませんが、利用のしやすさなど、さまざまな面でご意見をふまえて設計しました。また、市民サービスをどのように向上させていくかということに念頭に、できる限りシンプルかつコンパクトで動線が短くなる庁舎を目指しました。環境への配慮や外観デザインも含め、自信を持って皆さんにご提示できたと思っています。



市庁舎整備基本設計では、各階の基本的なレイアウトや備えるべき機能、設備などをまとめました



グラウンドゴルフ場(上)、児童遊技場(下)の整備を進める健康ふれあい公園



気候非常事態を宣言し、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにすることを目指します



コロナ禍で打撃を受けた地域経済を回復するため、クーポン券やチケット、観光券を発行

—— はじめに、市民の皆さんに新年のごあいさつをお願いします。

市長 市民の皆さん、新年明けましておめでとうございませう。昨年は、一昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の皆さんもさまざまな場面で大変なご苦労をされたことと思います。今年は、少しでも明るい話題が提供できるように、社会が明るくなるようになるように、全力をあげて頑張っています。昨年も、新型コロナウイルス感染症の流行で、市民生活にもさまざまな影響があった1年になりましたが、市としてどのようなことに取り組みされましたか。

市長 やはり、ワクチンの接種をいかにスムーズに希望者全員に行うかが一番大きな課題でした。接種の予約が取りづらくなるなど、皆さんにはご迷惑をおかけしました。全国や県の平均よりも多くの人に接種いただいた結果、本市の感染者数を抑えることができています。改めて皆さんに感謝申し上げます。経済対策は、一様ではなく、実際に影響を受けている人への支援を中心に実施しました。限られた財源の中ではありますが、市内の中小事業者などを支援する「おうみはちまん地元応援クーポン」や、市民が市内を観光することで観光関連事業者を支援する「ふるさと観光券」を発行するなど、本市としては、不十分どころもあつたとは思いますが、知恵のおよぶ限りのこと



ふるさと応援寄附金を活用して整備した大型遊具(左)と移動図書館車(上)

とはさせていただきますと感じています。

—— 令和2年度分のふるさと応援寄附金は、どのように活用されたのでしょうか。

市長 昨年度は、全国の皆さんから38億円を超える寄付をいただきました。本当に感謝申し上げます。この寄附金で、大型遊具を安土文芸の郷公園と運動公園に設置したり、移動図書館車を導入したり、また、近江牛を飼育する農家の支援に使わせていただいたりするなど、さまざまな分野に活用させていただきました。単に寄付をいただくだけではなく、特産物や文化などの本市の魅力を、全国の皆さんに知ってもらおう大きな機会として捉えています。

—— 令和4年の取り組みや展望についてお聞かせください。

市長 続くコロナ禍の中、「ウィズコロナ」としてどのような施策を進めていくか考えなければなりません。現在、ワクチンの3回目ブースター接種を開始していますが、これをベースとして、私たちの生活をどのように変えながら付き合っていくのかということが大事になってきます。現在では、テレワークが進み、行政のデジタル化を含め、非接触型社会になりつつあります。人が都会に集まる必要がなくなってきたり、近江八幡のような地方都市でも仕事ができるようになってきています。そのような状況の中で、皆さんに提供できる価値として本市の歴史・文化・自然が生かせるのではないかと考えており、これを市政運営の一つの軸にもしたいと思っています。

—— 昨年7月1日には、気候非常事態宣言を行われました。

市長 何より、一番気になるのが地球温暖化の問題です。このまま温暖化が続くと、人類をはじめとする生物圏が危機にさらされます。よって、自分たちのライフスタイルをどのように変え、環境に適合し調和を取っていくのかという大きな視点で考え、小さなことから実践していくことが大切です。例えば、植物を植えてみたり、暴飲暴食を控えてみたり、車に乗るのを少し控えてみたりするなど、さまざまな工夫ができると思います。ベースにある危機感をどのように皆さん

全国・世界で輝く選手を応援!

# 近江八幡市スポーツ優秀選手を表彰

問 スポーツ推進課 TEL(33)6303・FAX(33)3124

市では、市民もしくは市に所在する企業・学校・クラブチームの選手として、全国や世界の舞台で優秀な成績を収めた選手を「近江八幡市スポーツ優秀選手」として表彰しています。今年度の金賞・銀賞の受賞者は以下の皆さんです。

## 金賞



### 感動をありがとう!

いぬい ゆきこ  
乾 友紀子さん (アーティストックスイミング選手)

昨年8月に開催された、東京五輪のアーティストックスイミングで、本市出身の乾友紀子さんが、デュエット・チームの2種目に出場され、世界の強豪チームがひしめく中、ともに4位に入賞しました。また、キャプテンとして率いた日本チームの力強い迫真の演技は、近江八幡市民はもとより、日本国民の胸を打つものでした。

受賞を受け、乾さんは「市民の皆さんの温かいご声援がエネルギーになりました。今後も、一つひとつ目の前の試合を乗り越えていきたい」と話しました。



いわい そうた  
岩井 壮太さん (八幡商業高校3年)

- ・2021 カヌースプリントジュニア、U23 海外派遣選手最終選考会 U17 男子カヤックシングル 500m 優勝
- ・2021 オリンピックホープスカヌースプリント出場



こばやし いぶ  
小林 生歩さん (八幡中学校3年)

- ・JOC ジュニアオリンピックカップ 全国中学生カヌー大会 スプリント 男子カヤックペア 500m 優勝



こばやし さちほ  
小林 幸帆さん (安土小学校6年)

- ・令和3年度全国少年少女カヌー大会 カヌースプリント 女子カヤックシングル 200m 優勝、同ペア 200m 準優勝



こばやし はるな  
小林 陽菜さん (大津高校2年)

- ・令和3年度全国高校総体カヌースプリント 女子カヤックシングル 200m 優勝、同 500m 優勝
- ・2021 カヌースプリントジュニア・U23 海外派遣選手最終選考会ジュニア女子カヤックシングル 500m・1000m 優勝
- ・2021 オリンピックホープスカヌースプリント 女子カヤックシングル 500m 8位入賞

## 銀賞



えちご さく  
越後 沙貢さん (安土中学校2年)

- ・第44回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 水球競技 準優勝



でじ じんとう  
出路 仁斗さん (八幡高校3年)

- ・令和3年度全国高校総体陸上競技大会 男子やり投げ5位入賞



八幡商業高校男子カヌー部 (八幡商業高校3年)

- (写真左から石畑駿輔さん、いわいそうたさん、ほんだゆうたさん、めがたまことさん)
- ・令和3年度全国高校総体カヌー競技大会 スプリント男子カヤックフォア 200m 6位入賞
- ・2021 カヌースプリントジュニア、U23 海外派遣選手最終選考会ジュニア男子カヤックペア 500m 4位入賞 (本田さん、石畑さん)

## 「デジタル化＝機械化＝非人間的」の図式を捨てる



と共有することができるとは、チームです。そのうえで、行政としてできることを、皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。

——行政手続きのデジタル化も進み、市民生活も便利になってきましたね。

市長 行政のデジタル化はすごく大事です。手元にあるスマホで、何でも動かすことができるというところは、便利で環境にも優しいという良い面があります。デジタル化することで、人と人との関係が冷たくなると思われがちですが、それは違って、より個人に焦点が当たります。例えば、今、どの医院に入院し、どの薬を飲んでいて、どういう状況なのかということ、誰に話しても共有することができると、個人の状況に合わせたサービスをきめ細かに提供し、相談にも応じることができれば、これはデジタル化の利点の一つだといえます。今、市役所でも来庁者が複数の職員に同じことを何回も説明しなければいけないことがありますが、最初の1人に相談した内容を、みんなが共有できるようにするなど、きめ細かい本当の意味での行政サービスを提供するために、デジタル化は絶対に必要です。また、市民参画という側面でもデジタル化を進めなければなりません。ぜひ皆さんにも「デジタル化＝機械化＝非人間的」みたいな図式は捨て去ってほしいなと思っています。



## 新しい文化が生まれ、知的創造が起こる起爆剤に

10月8日～11月27日に開催予定のBIWAKOビエンナーレ。今回のテーマは「ORIGINE(起源)」。

——今年は2年に1度のBIWAKOビエンナーレの年ですね。

市長 なぜ芸術祭に取り組んでいるのかをお話したいと思います。これまでわが国はものづくりで発展してきましたが、一方で、「人はパンのみに生きるにあらざらず」、人は物質的満足だけでなく精神的満足も大切にして、さまざまなことを自己実現しながら生きています。芸術や文化、音楽、スポーツなど、人間の生み出す価値、人間そのものを生み出す価値を育て、みんなでそれを楽しんだり、喜びを見出したりする、そういう「経済」の一つとして、文化芸術があります。本市には、町屋など現代アートが生きる素材があり、古いものと新しいものを融合して、さらに新しい価値を創造するのにふさわしい土壌があります。そして、国内外から来た人たちがコミュニケーションを図ることで、新しい文化が生まれ、知的創造が起こったりするなどの起爆剤となるよう取り組んでいます。芸術祭で生み出される価値を、皆さんで共有できるようにしたいなと思います。

——最後に、市長ご自身の今年の抱負と市民の皆さんへメッセージをお願いします。

市長 市民の皆さんの抱える課題に、一杯取り組んでいくことはもちろんですが、人間が持つ「心」を大切に、全力投球で今年も頑張ってもらいますので、どうかよろしくお願ひします。

※この特集記事は、ZTVで1月1日～8日に放送する市広報番組「テレはち」の内容を基に編集しています。